



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2017年7・8月
第317号

病院だより第317号 (2017年7・8月号)
発行者 昭和大学藤が丘病院
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
発行責任者 藤が丘病院長 高橋 寛
編集責任者 広報委員長 原田 浩史
〒227-8501 横浜市青葉区藤が丘 1-30
TEL 045-971-1151

昭和大学スポーツ運動科学研究所の現状と 新たな取り組み (3年目を迎えて)

昭和大学スポーツ運動科学研究所 所長 三邊 武幸

平成27年4月に発足した昭和大学スポーツ運動科学研究所(以下スポ研と略す)は、今年4月に3年目を迎え、同時期に昭和大学歯学部スポーツ歯科の船登雅彦准教授がスポ研の教授として赴任され、さらなる展開を迎えることになりました。

スポ研の誕生は、至誠塾で、昭和大学病院整形外科稲垣克記教授(至誠塾3回生)が、平成24年に「本学はスポーツ医学における貢献度と信頼があり、スポーツ医学でナンバーワンをめざすことも本学のめざす道である」と研究発表したことがきっかけでした。

その後、小口理事長ならびに小出学長の指導のもと、医系総合大学である本学の特徴を生かし、「スポーツと健康」を主題に、各学部、附属8病院、3研究所の教育職員・事務職員・病院職員が連携して活動出来る研究所として設立されました。

今後も、「ONE-昭和を目指す」を合言葉に研究所活動を発展させていく所存ですので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

かつ有機的に協力して行うメディカルチェックです。

したがって、各部門の項目が終了してもそれで終わることはありません。情報を共有し、現場に還元すべく、選手毎の結果をカンファレンス形式で検討しています。これにはコーチ、トレーナーも参加してもらいフィードバックしています。個々の選手ならではの問題点を解決するべく情報提供しています。今後も、様々な分野で対応できる様に心がけて行きたいと思っております。ご協力お願い致します。



千葉ロッテマリーンズメディカルチェック後の総合カンファレンス
トレーナーの方々と個々の選手の問題点などを検討

内科部門

昭和大学スポーツ運動科学研究所 准教授 礒 良崇

早いもので、専任となった平成27年9月から今月で2年経ちます。内科部門では、1)心疾患・呼吸器疾患を中心とした内科疾患への運動療法(内部障害リハビリ)、2)アスリートの内科 MC・心肺チェックを主なテーマとして、内科独自または他科・他部署と共同で活動を行っています。診療だけでなく学会発表・論文作成など、研究所の1部門として学術成果の積み上げにも積極的に努めています。



上段左 礒 良崇准教授 右 西中 直也准教授
下段左 船登 雅彦教授 右 三邊 武幸所長

整形外科部門

昭和大学スポーツ運動科学研究所 准教授 西中 直也

我々研究所の活動の1つにアスリートメディカルチェックが挙げられます。現在は主に千葉ロッテマリーンズ・大東建託アスリート支援プロジェクト対象選手・日体大ラグビー部に対して行っています。

我々のメディカルチェックはこれまでにない革新的なものを目指しています。それは総合力、つまり医系総合大学である本学の特徴を生かし医療に関わる全ての分野が、横断的



第4回あおば心臓リハビリ教室

また、診療・学術とともに、研究所と地域社会との繋がりに貢献していくことも使命と考え、横浜市青葉スポーツセンターとの連携プロジェクトに取り組んでいます。当院での心臓リハビリ修了者が、生涯スポーツの場として同センターを安心して利用できる体制作りを行い、「あおば心臓リハビリ教室」なるチーム医療の出前勉強会を開催(写真)し、健康に関する様々な事柄について継続的な啓蒙活動を実施するに至っています。

スポーツ歯科部門

昭和大学スポーツ運動科学研究所 教授 船登 雅彦

スポーツ運動科学研究所の歯科部門は、提携しているアスリート達に対するデンタルチェックを担当しております。2年目となる今年も、継続して受診されたアスリートの口腔内環境が改善傾向にあり、フィードバックの効果が現れております。また、必要なアスリートにはスポーツマウスガードの提供を行っております。日本スポーツ歯科医学会認定マウスガードテクニカルインストラクターがマウスガードを製作・調整しているので、最適なマウスガードを提供できております。研究活動と

しては、「全身と咬合の関連性を解明する-カスタムメイドマウスガードのパフォーマンス効果の検討-」というテーマで検討し、挙上最適フォームの習得が重要と考えられるパワーリフティング競技におけるデッドリフトに対するマウスガード装着の有効性が実証されました。



パワーリフティング競技におけるカスタムメイドマウスガードのパフォーマンス効果の検討

部署紹介

リハビリテーション病院1階外来の紹介

リハビリテーション病院外来 係長 矢吹 充広

リハビリテーション病院1階外来は、リハビリテーション科、整形外科、内科(循環器、呼吸器、内分泌、腎臓)、小児科の診療を行っています。平成26年5月にはスポーツ健康外来を開設し、スポーツ整形外科、内科スポーツ健康外来(心臓リハビリテーション・禁煙外来・睡眠時無呼吸症候群外来・メディカルチェックなど)、スポーツ歯科外来の診療を行っています。スポーツ健康外来はトップアスリートから学生スポーツ、スポーツ愛好家だけでなく、日常生活で健康寿命延伸や疾病予防のために運動を行っている方も対象に「スポーツ・運動」と「健康」をキーワードとした医療を提供しています。

看護師は7名、看護助手2名で、看護スタッフは2階外来も兼務しています。医療事務は2名となっています。患者さんやご家族の皆さんに満足して頂ける外来診療を目指し、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など多職種と連携したチーム医療に取り組んでおります。



部署紹介

ER外来について

藤が丘病院ER外来 師長 田中 伸

昭和大学藤が丘病院ER外来は、横浜北部の二次医療圏にあり一次救急から三次救急の患者さんを受け入れております。横浜市青葉区の特徴は、平均年齢が市内で3番目に若く(43.2歳)、平均寿命が全国14位(85.0歳)とトップレベルの長寿地域です。人口も今後10年程度は増加が見込まれます。現在も救急要請は増えており、救急車受け入れ数は年々増加しております。医師や他職種と協力して可能な限り受け入れを行っており、救急車拒否率は年々低下しております。また、ER看護師は心臓カテーテル、脳アンギオ、ERCP、CF、GFなどの緊急治療にも幅広く対応しており、あらゆる疾患で救急にいられた患者さんを、いち早く助けられるよう日々学習と訓練を行って体制を整えております。これからも地域に貢献できるER外来であるよう精進していきたいと思っております。関係各所の皆様の変わらぬご理解とご協力を、今後ともよろしくお願いいたします。



公開講座を開催しました

7月1日(土)午後、藤が丘病院 C 棟講堂にて平成29年度第1回昭和大学公開講座が開講され、地域の方を中心に76名の方が受講されました。今回は昭和大学の統一テーマ「暮らしと健康」より、藤が丘病院整形外科神崎浩二准教授による「腰痛を学ぼう!」と、藤が丘病院認知症看護認定看護師松本明子看護師による「認知症の正しい理解—地域で支える輪—」の2講演が行われました。受講者はメモを取りながら熱心に聴き入り、講演終了後は質疑応答が予定時間を超えて行われました。次回の第2回公開講座は「高齢社会をいきいき生きる」をテーマに、11月に開催する予定です。今後も地域の方が気軽に参加できる講座を開催していきたいと考えています。



(藤が丘病院管理課 高橋 良治)

七夕の笹を飾りました

7月7日の七夕にちなみ、今年も6月30日から1週間、藤が丘病院、リハビリテーション病院ともにそれぞれ願いのこもった笹を飾りました。色とりどりの笹飾りは正面玄関や病棟に夏の季節感を与えてくれました。また、当日は全病院で実施される「クールアース・デー ライトダウン」に参加しました。各病棟や共用廊下等、消灯時間を8時半や9時に早めることで地球温暖化防止に努めました。



(藤が丘病院管理課 小林 美貴)

第23回 藤が丘地域連携フォーラムが開催されました

平成29年7月13日(木)、藤が丘病院にて第23回藤が丘地域連携フォーラムを開催いたしました。今回も地域医療機関の先生方や関係者の皆様86施設119名、昭和大学藤が丘病院関係者117名の合計236名の方々にご参加いただきました。今回は下記の2演題の講演を行い、活発な質



疑がなされました。講演会に引き続き立食形式での懇親会を開催しました。各テーブルとも、とても賑やかに会話が弾んでいました。ご参加いただきました皆様方には感謝申し上げます。

なお、次回、第24回地域連携フォーラムは、平成29年10月12日(木)に開催を予定しておりますので、多数のご参加を心よりお待ちしております。

- 1) 「COPDの最近の話題と地域連携について」
昭和大学藤が丘病院 呼吸器内科 診療科長
鹿間 裕介
- 2) 「スポーツ科学研究所について」
昭和大学スポーツ運動科学研究所
船登 雅彦・磯 良崇・西中 直也

(藤が丘病院医療推進課医療連携係 馬杉 朗子)

若手ワークショップに参加しました

今年初めて若手ワークショップ(7月7日、8日)に参加しました。今年度は「ワークライフバランスと生産性向上を両立するために取り組むこと」をテーマに各班で議論を進めました。班のメンバーは、法人・学事・病院の各部門から構成されており、それぞれの部署の声聴ける貴重な機会となりました。検討を進めていく中で、新たなものを生み出すことの難しさを感じました。そして時にはファシリテーターにもアドバイスをいただきましたながら、協力し合い最終的に1つの結論に至ることができました。ワークショップで得られた経験を日常業務の中で生かしていきたいと思えます。



(藤が丘病院管理課 丸山 美由紀)

藤が丘1丁目、2丁目盆踊りに参加しました

7月15日(土)藤が丘第三公園にて藤が丘二丁目自治会夏祭り盆踊り大会が、8月5日(土)には藤が丘駅前公園にて藤が丘一丁目町内会盆踊り大会がそれぞれ開催され、例年のように両病院から事務部をはじめとして、看護部、臨床病理検査室等多くの職員が参加しました。参加した職員はお揃いの青い法被を身に纏って地域の方と一緒に踊りの輪に加わりました。地域の方との交流をより深められる良い機会となりました。



(藤が丘病院管理課 小林 美貴)

平成29年度大規模地震時医療活動訓練に参加しました

平成29年7月29日(土)に内閣府主催の大規模地震時医療活動訓練が行われました。7月28日正午に和歌山県南方沖を震源地とするマグニチュード9.1、最大震度7の南海トラフ地震が発生し、三重県、大阪府、兵庫県、和歌山県に甚大な被害が発生したとの想



日本各地からDMATカーでDMATが集結しました

定で、昭和大学藤が丘病院 DMAT(医師1名、看護師2名、業務調整員1名)も参加しました。三重県の参集拠点本部(東名阪自動車道桑名 IC 桑名保全サービスセンター)に参集し、その後、三重県伊勢庁舎に移動し DMAT 活動拠点本部としての訓練を行いました。

(藤が丘病院管理課 小泉 春樹)

リハビリ病院中階段壁画ボランティア【最終章】

今年もリハビリテーション病院夏の行事が始まりました。橘学苑高等学校(鶴見区)によるボランティア活動壁画制作です。今年で4年目。いよいよ最終章(4階～5階)になります。例年学校で厳選された数点から教職員の投票により図柄



が決まります。今年選ばれたのは「風車」。製作期間は9日間、限られた時間の中で、1年生(14名)、2年生(6名)、3年生(7名)がチームとして制作しました。下書きせずに直接壁にペイ

ントします。まるで、そよ風がやさしく風車を回しているかのように見えますね。「患者さんの心を豊かにしたい、楽しくリハビリが出来たらいいなあ」今年もきっと思いは届いたことでしょう! 清々しい風とともに。



(リハビリテーション病院管理課 林 好彦)

診療統計 2017年6月・7月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2017年6月	2017年7月	2017年6月	2017年7月
外来患者数	29,900人 (1,150.0人)	28,616人 (1,144.6人)	4,026人 (154.8人)	3,936人 (157.4人)
入院患者数	15,925人 (530.8人)	16,831人 (523.0人)	5,310人 (177.0人)	5,579人 (180.0人)
紹介率	86.9%	84.0%	66.9%	68.0%
逆紹介率	60.6%	53.2%	71.1%	70.3%

《広報委員会委員》

原田 浩史	池田 裕一	佐々木春明	市川 度	小岩 文彦	川手 信行
芳賀 ひろみ	辻本 さなえ	猪股 里美	岩城 馨	鈴木 絢子	下田 遥菜
岩井 譜憲	大塚 凌	高橋 良治	(順不同)		